



敦賀本部

【技術交流会トピックス】

一夏の陣 「原子力技術利用フォーラム」開催される



石橋本部長代理による「ふげん」「もんじゅ」の現況説明



木村化工機機兼清理事からのご紹介

6月26日、「もんじゅ技術利用研究会」と原子力機構が行っている技術交流会の第10回目として、「原子力技術利用フォーラム」を福井商工会議所で開催しました。当日は100名近くの非常に多くの方が参加されました。このフォーラムでは、原子力の技術や知識を企業の自社技術とどのように結びつけるか、また、原子力技術を利用している現状、これから先の原子力技術を担う人材を企業や大学はどのように

育成していくか、等についてパネルディスカッション形式で紹介しました。その中で、福井大学 高島機構長からは、大学としては、原子力発電所の廃止措置のための人材育成、企業の原子力関係産業への参加支援が重要であると紹介されました。清川メッキ工業(株)様から、成果展開事業の成果をご紹介頂き、原子力機構からは企業との取り組みや、大学等への講師の派遣等の協力体制を紹介しました。その他に既に原子力業界に参入している木村化工機(株)様から、原子力業界に進出する事でのメリットや進出するまでのご苦労等を、過去の経験を交え分かり易く紹介頂きました。このフォーラムが参加された方々にとって今後の活動の支援となる事を期待します。

今後とも、このようなフォーラムや展示会を通じて多くの方々と交流を持って協力していきたいと思います。



＜コーディネーター＞
福井県機械工業協同組合 松浦理事長
＜パネリスト＞
清川メッキ工業(株) 清川専務
(株)ナカテック 中山社長
若狭湾エネルギー研究センター 来馬常務理事
福井大学 高島機構長
原子力機構 緒方統括



参加された100名近くの企業の方々



【技術相談】ウメの果肉障害対策について

敦賀市を含む嶺南地域一円で栽培されている特産「福井梅」の代表品種である「紅サシ」、「剣先」に生育環境条件(ストレス)による一種の生理障害と思われるゲル状異物が発生し、商品的価値を著しく低下させるため、栽培農家にとって生産上大きな問題となっております。

このため10年程前から関係研究機関で、その原因究明に取り組まれておりますが、未だ解明されておらず、栽培農家から早期原因解明と発生対策技術開発への期待が高まっております。そのため、この度、当機構の研究開発成果に基づき、この「ゲル状異物」発生の原因は『自然界に於いて、紫外線(人工放射線に代わる役割)により、セルロースの化学架橋

反応が促進され、結果、保水能力の高い網目状セルロース(ハイドロゲル)が生成される』との仮説を立て、JA敦賀市始め、関係機関と共同で紫外線遮断等の各種試験を行ないながら、紫外線との関連性を確認するなど発生原因の解明と、更には発生対策技術の開発を進めていくこととなりました。



試験状況写真(敦賀市二村地区)



「紅サシ」のゲル状異物(敦賀市二村地区)

「一日様」

「化学架橋反応とは...」
高分子などの分子鎖間を化学結合により橋架けする反応のこと。

